

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	17050
課題名	炎症性腸疾患における静脈血栓塞栓症の頻度・危険因子およびリスク層別化に関する後方視的観察研究
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2018年12月31日
研究の対象	2009年1月～2017年6月に当院消化器内科3に入院された方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：性別・年齢・病名・病歴・治療法・血液検査所見・CT・超音波検査所見、血栓症の有無、カルテ番号 等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
研究の意義、目的	<p>潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患では、深部静脈血栓症や肺動脈血栓塞栓症といった静脈血栓塞栓症を合併することが多いと、欧米での研究により報告されており、予防を行うことが推奨されています。</p> <p>しかし、わが国では炎症性腸疾患に合併した血栓症がどのくらい発生するか、ほかの病気と比べて多いのか少ないのか、どのような患者さんがなりやすいかを明らかにした研究はほとんどありません。そこで、わが国での炎症性腸疾患に合併する静脈血栓塞栓症が、どのくらいの頻度で発生し、どのような患者さんがなりやすいかを検討することで、今後どのような患者さんに予防をすると効果的であるかを明らかにすることにつながると考えられます。</p> <p>そこで、これまでに当科で入院された患者さんの診療情報を収集し、調査することが、この研究の目的です。</p>
研究の方法	<p>2009年1月～2017年6月までに当院消化器内科3に入院された炎症性腸疾患、および癌やそのほかの消化器疾患の患者さんにおいて、カルテなどから診断名や病歴、年齢・性別などの患者情報や血液検査の結果などを収集し、深部静脈血栓症や肺動脈血栓塞栓症といった静脈血栓塞栓症を発症したかどうかについて調査します。炎症性腸疾患患者さんにおいて静脈血栓塞栓症を発症した頻度を調べ、癌やそのほかの疾患で入院された患者さんの頻度と比較します。また、炎症性腸疾患で静脈血栓塞栓症を発症した患者さんと発症しなかった患者さんの年齢・性別、病状・治療法や血液検査の結果を比較して、血栓症を発症しやすい患者さんの特徴を明らかにし、入院時点で血栓症にどのくらいなりやすいかを予測できないかを調べます。</p>
その他	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p>

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

旭川医科大学 地域医療支援および専門医育成推進講座

研究責任者 安藤 勝祥

連絡先：0166-68-2462